

知っておきたい OITA 防災

今日から始めよう、「防災対策」!

まずは、日ごろから一人ひとりが防災意識を高め“自分の周りにどのような危険が及ぶのか”を考え被害を少なくするために行動しましょう。




第10回 津波の危険から 身を守りましょう

津波が見えてからでは避難が間に合いません。命を守るには、津波が届かない高い場所へ避難するしかありません。津波の危険がある場所では、「大きな揺れを感じたら、すぐ避難する」。このことを必ず心掛けておきましょう。

津波から命を守る対応チャート

こんなときには	まずこのような行動を	その後は…
<ul style="list-style-type: none"> ●これまで感じたことのない強い揺れを感じた 避難する ●大津波・津波警報が発表された(揺れを感じなくても) 避難する ●津波注意報が発表された(揺れを感じなくても) 避難に備える 	<p>すぐ避難する!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに離れて高台などの安全な場所へ避難する ●ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難する <p>海岸から離れる!</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海の中にいる人は、直ちに海から上がって、海岸から離れる ●沿岸部にいる人たちはいつでも避難できるように準備する 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しい情報をラジオ・テレビなどで入手する ●津波は繰り返し来襲するので、警報・注意報が解除されるまでは絶対に海岸に近づかない

津波から避難する3つのポイント

<p>Point1</p> <p>まずは海や川から離れる 津波により浸水が想定されている地域では、まずは浸水想定区域外への避難を最優先に。</p> 	<p>Point2</p> <p>避難は徒歩で原則として、車で避難するのはやめる。</p> 	<p>Point3</p> <p>逃げ遅れたら「高く」にすでに浸水が始まってしまっていたら、「より高い」場所に逃げる。</p> 
--	---	--

津波に関する注意報・警報

津波による災害の発生が予想される場合、大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されます。津波警報を聞いたら、直ちに避難しましょう。

警報・注意報の分類	予想される津波の高さ	
	数値での発表(高さの区分)	巨大地震の場合の表現
大津波警報	10m超(10m~)	巨大
	10m(5m~10m)	
	5m(3m~5m)	
津波警報	3m(1m~3m)	高い
津波注意報	1m(20cm~1m)	(表記しない)

津波避難に関するマークを覚えておこう!



津波避難場所

「概ね海拔10m以上の広場等」を津波の際の避難場所として表しています。



津波避難ビル

「避難が困難な人や逃げ遅れた人が緊急に避難する建物」を表しています。

津波・地震ハザードマップはこちら▶



防災危機管理課 ☎537-5664 ☎533-0252

監修：大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター

表紙のことば

寒い中でも元気に遊ぶ子どもたち。保育士は子どもたちの成長に関わる魅力ある仕事です。市や県では保育士として働きたい人をサポートしています。あなたも一緒に働いてみませんか。